

J-CEF NEWS

no. 11

2016 AUTUMN

リレーエッセイ

○ 地元の活性化を目指して
／岩田祥喜郎（玉野商業高等学校）

実践事例紹介

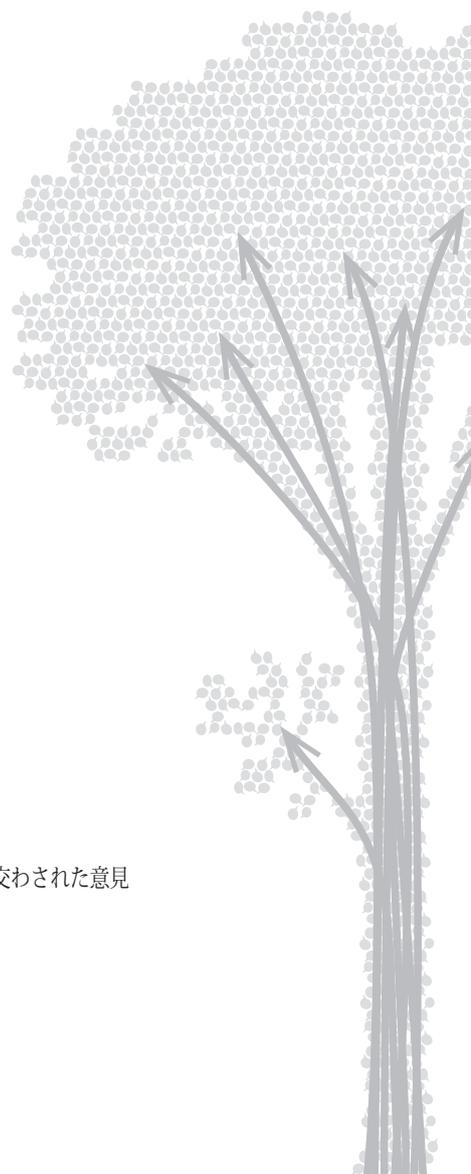
○ 市民性の育成をめざすアクティブ・ラーニング型道徳授業の提案
／中 善則（花園大学教授）

特集

○ 『18歳選挙権』初の参院選をふりかえる
／原田謙介（NPO 法人 YouthCreate 代表理事）
／林 大介（東洋大学社会学部助教、模擬選挙推進ネットワーク事務局長）
／J-CEF スタディ・スタヂオ KOBE vol.14 「選挙を終えて考える、主権者教育の成果と課題とは？」で交わされた意見

お知らせ

○ 第4回シティズンシップ教育ミーティング
シティズンシップ教育推進人材養成講座



地元の活性化を目指して

玉野商業高等学校
岩田祥喜郎

私は、岡山県玉野市に住んでいる高校3年生です。玉野市と聞いてどんなイメージがあるでしょうか。イメージがない、もしくはその存在を知らないのではないかと思います。私も自分が住んでいる町なのにどんな町なのか知りませんでした。しかし、私が高校1年生の時に会った地元イベントを通じて玉野市のことがだんだんとわかりその魅力を多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

そのイベントは「UNOICHI～海が見える港のマルシェ～」というものです。このイベントは玉野市が誇る大型客船が入港できる港で季節ごとに行われるマルシェ型イベントです。

UNOICHIが始まったとき私は高校1年生でした。初めはなんとなくボランティアとしてイベント運営に携わりました。この一回のボランティア活動でもっと玉野市の魅力を知り、多くの人に伝えたい、イベント運営の中心メン

バーとして活動したいと思いました。

高校二年生の夏、あるイベントで一つの企画を任されました。この機会をチャンスだと感じた私は、この企画に全力で取り組みました。結果として企画は成功し、これを通して責任感や助け合うということの重要性を時間しました。この企画での頑張りが認められ、UNOICHI実行委員会のメンバーになりました。これで今まで以上にイベント運営の中心として活動ができると思うとともに嬉しかったです。

私がUNOICHIでの活動の中で一番印象的だったイベントがあります。それは高校三年生の時に開催された、学生が今までのUNOICHIの中で学んだことを生かして行う学生が主体の学生版UNOICHIです。

私はこのイベントで実行委員長をさせて頂きました。これを通してイベントを一から作り上げることの大変さ、リーダーというものの難しさを痛感し

ました。また、スタッフ同士の報告・連絡・相談の報連相の重要性が感じることが多く、このイベントを機に報連相に対する意識を高めることができました。

私は、高校生活の3年間をUNOICHIとともに歩んできたと言っても過言ではありません。UNOICHIでの活動は多くの大人と出会ったり、その中で多くのことを学びました。特に、この三年間で報連相の重要性などの責任感への意識を高めることができ、こういったことは自分自身のスキルアップにつながりました。こうした学びは、学校の授業では学べないことだと思います。高校生活の三年間で学んだことを今後社会に出た時にも最大限に生かして何かしらの形で社会に貢献したいと思います。そして、今後も地元玉野市の活性化を目指した活動を自分が先頭に立って行っていきたいと思っています。